

学生キャリア座談会等

【情報提供】「農山漁村における学生のキャリアモデル座談会」

(主催:農林水産省、協力:(一財)日本グラウンドワーク協会)が開催されました。

農林水産省では、農山漁村における若者の「定着」の増加には、地方創生・課題解決に問題意識のある学生に農業・農村に目を向けてもらうことが重要であり、より多くの学生の参入の促進のための取組を展開するとしています。学生は農山漁村での活動について自身のキャリア形成にメリットと感じる一方で、その先(取組の出口)が見えていません。座談会においては、キャリア構築について、学生の農山漁村での活動のその先(取組の出口)を見せるため、農山漁村のスタートアップや一次産業に就職した学生のキャリアモデルの整理(ボトルネックの特定とその解決策の検討)を行います。

学生の取組の意義と出口を示すことで、より多くの学生の農山漁村への参画を促進。学生の取組の地域課題解決への貢献、一次産業等への就職につながり、学生と地域とのwin-winの関係につながります。座談会の参加者は、学生が東京大学東大生地方創成コンソーシアム、静岡大学棚田研究会、明治大学「楽農」4Hクラブ、龍谷大学学生団体rindo、企業が株式会社浅井農園、株式会社タイミー、株式会社JAL航空みらいラボ、(一財)日本グラウンドワーク協会。



【情報提供】『「つなぐ棚田遺産」オンラインマッチングイベント』でプレゼンテーション

農林水産省主催の『「つなぐ棚田遺産」オンラインマッチングイベント』が開催されました。110以上の行政機関(国、県、市町村)、棚田保全団体などが参加しました。このイベントは「つなぐ棚田遺産」オフィシャルサポーター企業等のできることで棚田地域の求めることを結びつけて、棚田地域の振興を図ることを目的としています。現在、30以上あるオフィシャルサポーター企業等の中で、5つの企業、団体が棚田地域の振興のために貢献できる具体的な方策についてプレゼンテーションを行いました。当協会は「大学生サークルと農村のマッチング(お見合い)事業」についてプレゼンテーションを行いました。なお、前年度は、棚田イベント後、NPO法人地域おこし(新潟県十日町市)から依頼があり新潟大学新大むらづくり応援隊と、NPO法人ゆや棚田景観保存会(山口県長門市)から依頼があり山口大学棚田・地域おこし学生応援隊とマッチングを行いました。



新潟大学マッチングの様子



山口大学マッチングの様子

「自治領の寮長として」

清水悠有 千葉大学園芸学部 3年

私は現在、留学生を含む男女約40名が共に生活する大学生の自治寮において、寮長という大役を担っています。この寮は、単なる居住施設ではなく、学生自身が運営のすべてを司る「自治」の場です。入退寮の手続きから寮費の管理、公共料金の支払い、設備の保守点検に至るまで、生活に直結するあらゆる業務を仲間と協力して遂行しなければなりません。その円滑な運営を支えるため、私たちは寮長・副寮長を筆頭に、会計、会計監査、衛生厚生、文化交流といった各委員会を組織し、一人ひとりが役割を持って責任を果たす体制を整えています。

昨年10月に前寮長からの推薦を受け、この大役を引き継ぐことになりました。就任当初は、私よりも人生経験が豊富な大学院生や先輩方が数多く在籍している中で、自分がリーダーとして組織をまとめられるのかという大きなプレッシャーに押しつぶされそうになったこともあります。しかし同年代の仲間や、先輩方のサポートがあったからこそ、今日まで手探りながらも運営を続けていくことができています。

寮の運営において私が最も大切にしているのは、対話の場です。毎月開催する委員会会議では、各部署の活動状況を確認するだけでなく、生活の中で生じている微細な摩擦や問題点を丁寧に汲み取ることに注力しています。例えば最近、ゴミ出しの方法が守られず、業者に回収を拒否されるという問題が浮上りました。委員会で徹底的に議論を重ねた結果、燃えるゴミの中にプラスチックゴミが混入しているという実態が判明しました。

この時期はちょうど新しい留学生たちが生活を始めたタイミングであったため、ルールを単に掲示するだけでなく、文化や言語の壁を超えた直接的なコミュニケーションが必要だと判断しました。そこで、留学生を対象とした対面での「ゴミ捨てレクチャー会」を企画・開催しました。一方的なルールの押し付けではなく、なぜこのルールが必要なのかを共有したことで、ゴミ問題は速やかに解決へと向かいました。

また、三ヶ月に一度開催される全寮生会議は、寮全体のルール改定などを行う重要な意思決定の場です。しかし、厳格な議論だけでは組織の柔軟性は保てません。私は、寮生全員が一堂に会するこの機会を、コミュニティの絆を深めるための最大のチャンスと捉え、会議の後には必ず親睦会を企画しています。

こうした経験の連続の中で、私は組織運営の本質を学びました。それは、「1人で100の成果を出そうと孤軍奮闘するよりも、10人が30ずつの力を持ち寄り、計300の大きな結果を引き出す」という考え方です。一人の肩に重責を負わせるのではなく、互いに補い合うことで、個々の負担を減らしながらも、組織としてはより大きな価値を創造できるのです。この「協力の連鎖」を生み出すためには、一朝一夕にはいかない人間関係の構築こそが、リーダーとして最も優先すべき努力であると確信しています。

現在は、2月から3月にかけて実施する新規入寮生向けの見学会や説明会の準備をしています。寮長として過ごすこの貴重な日々の一つひとつを糧に、これからも仲間と共に成長し続けたいと考えています。

行こうよ！水土里の旅！

□ 横田開拓地区(島根県仁多郡奥出雲町)

横田開拓事業の実施地域は、島根県東南部に位置し、広島県、鳥取県とも隣接する中国山脈の山岳地帯の内陸盆地で、85%が山林原野の山間地域です。このような条件の不利な農業地域の発展を支えることを目的として、国営農地開発事業(昭和49年度～平成7年度)により、375haの農地を開拓するとともに、坂根ダム、用水路(41路線、149km)、揚水機場4箇所、加圧機場13箇所、ファームポンド3箇所、道路63路線、38km)が整備されました。本地区では、酪農(牧草)、キャベツ、そば、果樹(ぶどう)、稲作の生産が盛んで、出雲そばはもちろん、和牛、ワイン、仁多米も特産品となっています。担い手不足や高齢化が加速する中、国営事業で整備された施設は、今なお山間農業を支える重要な基盤となっています。



坂根ダム
(重力式コンクリートダム)



島根ワイナリーのぶどう畑



そば畑

「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」が世界農業遺産に認定されました。横田開拓地区を含む奥出雲町の農業は、たたら製鉄の原材料の砂鉄を採掘するために導いた水路やため池、切り崩した山々を棚田として再生しました。採掘跡の養分のない痩せた土地には、そばを蒔いたり、製鉄の運搬に利用した和牛の堆肥を活用し、稲作の農業生産性を高めました。また、製鉄の燃料として輪伐してきた薪炭林はシイタケなどの特用林産に変わり、山林の維持管理技術が受け継がれています。稲作、畑作、畜産、林業を有機的に結びつけたこれらの営みや、優れたランドスケープの構築、文化の継承、生物の多様性の創出などが評価され、世界農業遺産に認定されました。



たたら製鉄由来の資源循環型農業
日本農業遺産・奥出雲町

□ 木次(きすき)線



乗り鉄じゃなくても楽しめる木次線。日本全国で6路線しかないスイッチバックが体験できます。狭いトンネル、森林の中を走る列車はスリル満点です。電車のロゴもかわいらしい「き♥」。

□ 出雲そばを堪能!!



日本三大そばの一つ出雲そばで舌鼓。割子に入ったそばに薬味、つゆをかけて、一気にすする食べ方は、風味、のどごしを堪能できます。

農業土木技術—プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術—プロの仕事」。今回は、畑地へのICT機器導入事例について紹介します。

1. ICT機器導入の背景と目的

背景
農業へのICT（情報通信技術）の導入は、水田や大規模施設栽培を中心に広まりつつありますが、畑地や中小規模の農家での事例はまだ多くありません。そのため、小規模施設栽培（トマトハウス栽培）にICT機器を導入する場合の導入方法の検討や、効果の検証を実施します。

目的
①小規模の施設栽培へのICT機器導入 → ICT機器の導入方法の検討、費用対効果の検証
②国営事業で整備した用水（河川水）の利用促進 地下水と河川水の水質、収量・品質の比較

2. ICT機器導入方法の検討

営農者に聞き取りを行い、利用やすく、省力化が図れるような監視項目と制御項目を決定しました。



記録・監視項目

機能	内容
ハウス内環境記録	気温、湿度、土壌水分、散水量 等
ハウス外環境記録	気温、湿度、照度、風速、降雨 等
制御状況記録	機器の操作時刻、カーテン開度
遠隔監視	スマホやPCから記録データを監視
警報	異常値のメール通知

実際に導入した機器

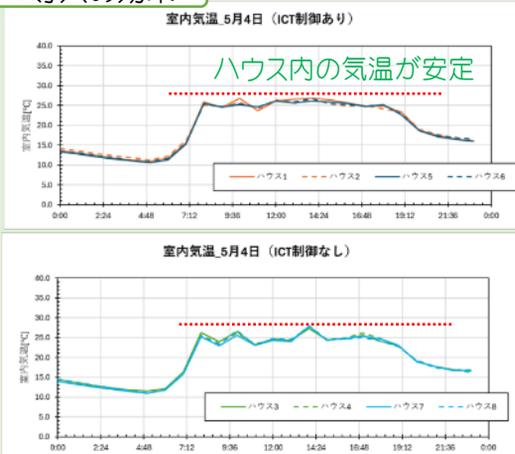


制御項目

機能	内容
カーテン開閉	開度(0~100%)を遠隔操作もしくは気温で開閉を制御
かん水バルブ開閉	ON/OFFを遠隔操作もしくはタイマー制御

3. 効果検証

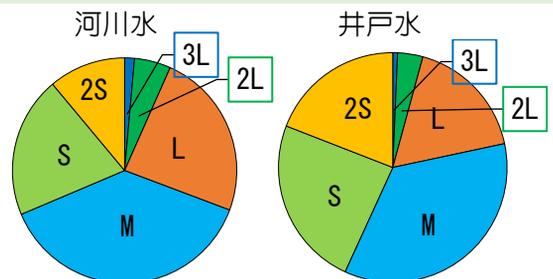
①ICT導入の効果



カーテン開閉を気温制御により完全自動化へ！
ハウス内の気温が安定し、労力が大幅減！

②用水切替の効果

用水切替による収量、品質への影響検証と河川水の水質が栽培品種に適しているか検討



※3L~2Sはトマトのサイズを示す。
河川水は、M以上の比率が大きく、収入増に寄与

収量・品質において河川水は収入増に寄与！
水質は河川水の方が成分バランスが良い結果に

今後は、試験の継続によって蓄積したデータをもとに、かん水の完全自動化や営農経費節減効果のさらなる向上を目指します！

サークル活動紹介



「明治大学「楽農」4H クラブの活動紹介」



私たちは、明治大学「楽農」4H クラブです。このサークルでは、農業体験を大切にし、実際に体験することを通して農業の楽しさや魅力を感じることを目的に活動しています。畑での作業や収穫体験を通して、大学に在るだけでは得られない学びや人とのつながりを築いてきました。また、初心者でも気軽に参加できる雰囲気作りを心掛けています。

活動としては、大学内の圃場での作物栽培や川崎市黒川駅周辺での田植えや稲刈り体験、福島県や北海道でのワーキングホリデーなどがあります。

この中でも、北海道でのワーキングホリデーは去年から始まったのですが、遠軽町という一面がじゃがいも畑の場所で大型機械を用いて作業を行うので、より一層本格的な農業を体験できます。作業中や休憩中に地域の方々や他の大学の学生との交流もあり、非常に楽しく作業に取り組むことができました。

11月初めに行われる大学祭では、遠軽町のじゃがいもを買い取らせていただき、じゃがバターにして販売しました。カルビーのポテトチップスなどにも使われているじゃがいもなのでそのまま食べても美味しいと、とても好評でした。

北海道での活動を通して、様々な経験をさせていただいたので、これからも学生にしかできない、自分たちと地域がお互いに良い影響を与えられるような活動に挑戦していきたいと思っています。



北海道でのじゃがいも収穫



稲刈り体験

農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

☐日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

【発行・お問合せ先等】 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。